

2011年3月期第2四半期 決算IR説明会 質疑応答概要

株式会社メイテック

- 1.日 時 2010年11月12日(金)14:00~15:00
2.場 所 当社東京本社 カンファレンスルーム
3.当社側説明者 代表取締役社長 西本 甲介
取締役 國分 秀世
取締役 米田 洋
取締役 中島 清雅
取締役 上村 正人

4.質疑応答

質問 10月のメイテック単体の稼働率86.6%を受けて、第3四半期の稼働率は上昇を見込むのか？

回答 四半期、半期の区切りである10月の稼働率が前月比プラスで着地したことから、第3四半期については稼働率の改善を見込めますが、第4四半期以降は、為替動向等の不透明な要素も多く楽観は出来ないと見えています。

質問 稼働率の上昇を見込むにも関わらず、下期想定が10月より低い(85.8%)特段の理由があるのか？

回答 10月の稼働率が想定より良かったことが1つの要因です。もう1つの要因は、業務フェーズを下げた領域で配属している若年層のエンジニアを通常の領域に戻す過程での契約終了を織り込んでいるためです。尚、本日発表の稼働率予想は、10月実績確定前に策定しています。

質問 中長期の見通しについて？

回答 技術者派遣市場は金融危機以降縮小傾向にあると見えています。同時に、顧客による派遣業者の選別・淘汰が始まっていると見えています。市場規模が縮小する中で、顧客は信頼できる派遣業者との取引を希望されており、そのような環境をプラスと考え、市場シェアを拡大していく方針です。

質問 株主への利益還元について考え方に変更はあるか？

回答 中期経営計画の策定において本件についても検討して行きます。利益還元の基本的な考え方に大きな変更はないと考えていますが、具体的なルール等については変更する可能性があります。

質問 政策効果の切れる自動車・家電といった業種の設計開発需要に変化は見られるのか？

回答 変化はないと見えています。次代の成長戦略に向けた技術開発投資の再開が昨年の後半以降緩やかではありますが拡大しており、売上等の減少によって再開した技術開発投資を止める状況にはないと見えています。但し、更にマクロ環境が悪化した場合に技術開発投資の緩やかな拡大が継続するかというと不透明です。

質問 緩やかな稼働率の改善が見込まれると思うが、来年度以降の業績の見通しは？

回答 来期以降の業績については、足下の稼働率動向だけではコメントできません。当社としては、稼働率の改善を第一に考え、期末までに単月の稼働率が90%を超えることを目指していきます。

質問 期末配当の計算方法や前提条件を教えてください

回答 詳細は、3月下旬までに開示する予定です。

質問 来春新卒の採用50名について、採用の進捗状況は？

回答 既に内定を出した人から入社意向もいただいています。引き続き採用を進めていきます。

以上